

## 2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	建築音響測定法小委員会		主 査 名：杉江 聡 就任年月：2013 年 04 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)		委員長名：羽山 広文 主 査 名：佐久間哲也
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築音響に関する測定方法について調査および検討を行う。</li> <li>・ フランキング成分を把握するための測定方法について検討を行う。</li> <li>・ 材料の吸音率測定や音場把握のために pu センサの適用に関する検討を行う。</li> <li>・ 実騒音を用いた外周壁遮音性能測定方法について検討を行う。</li> <li>・ A 特性による遮音性能評価に関する検討を行う。</li> <li>・ 15 年度：上記検討の共同実験計画および実施。A 特性評価に関しては測定上の課題の整理。</li> <li>・ 16 年度：前年度実験結果による適用範囲検討および新たな共同実験の計画および実施。A 特性評価に関しては、引き続き測定上の課題を整理。</li> <li>・ 17 年度：新たな取り組みに関する議論</li> <li>・ 18 年度：全体取りまとめ</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し		
	主査：杉江聡 (小林理学研究所) 幹事：平光厚雄 (国土技術政策総合研究所)、山内崇 (戸田建設技術研究所) 委員：赤尾伸一 (三井住友建設技術研究所)、稲留康一 (奥村組技術研究所)、織田慎一 (NHK 大阪放送局)、古賀貴士 (鹿島建設技術研究所)、酒巻文彰 (永田音響設計)、坂本慎一 (東京大学生産技術研究所)、竹林健一 (鹿島建設技術研究所)、田中学 (日本建築総合試験所)、宮島徹 (清水建設技術研究所)、矢野博夫 (千葉工業大学)、渡辺充敏 (大林組技術研究所)		
設置 WG (WG 名：目的)	無し		
2015 年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1 .
講習会	1 .
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1 .
大会研究集会	1 .
対外的意見表明・パブリックコメント等	1 .
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. フランキング測定として音響インテンシティ法の適用を目的に、より実際に近い音場を想定した共同実験 (第 2 回) を行い、本方法の適用範囲を検討した。 2. 前年度に実施した pu センサを用いた室内の音響エネルギー密度測定結果を再分析し、pu センサの校正方法の検討を行った。 3. A 特性による遮音性能評価を行う際の測定上の課題を整理した。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会発足時の目標に従い活動を実施しているので、特に問題はない。

## 2015 年度 小委員会活動 自己評価

## (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p><u>1. 音響インテンシティ法</u>の検討</p> <p>15年度：局所的な漏洩音（室間遮音性能測定におけるフランキング成分）の計測に音響インテンシティ法を適用することを目的として、他の部位からの発生音の影響を把握するために、前年度よりも実際に近い音場を想定した共同実験を計画し、実施した。</p> <p><u>2. pu センサを用いた吸音率および音場性状把握に関する検討</u></p> <p>15年度：前年度に行った、容積の小さい室内における音場性状の把握を目的とした、pu センサを用いた音響エネルギー密度の測定結果を再分析し、室間遮音性能測定等への適用について議論した。また、文献等により、センサ校正方法について委員間の知識の共有を行った。</p> <p><u>3. A 特性による遮音性能評価の検討</u></p> <p>15年度：音環境規準検討小委の依頼により、A 特性による遮音性能評価の際の測定上の課題を整理した。</p> <p><u>4. 実騒音を用いた外周壁の遮音性能測定の検討</u></p> <p>実施可能な適切な施工物件が見つからず実施しなかった。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。